

2011年9月20日(火)

## 東奥日報

ニュース

Tweet

### 十鉄沿線2首長と会談/十和田市長

十和田観光電鉄(本社・十和田市)が鉄道事業存続のため沿線3市町に10年間で約5億2千万円の財政支援を求めている問題で、十和田市の小山田久市長は20日午前、三沢市の種市一正市長、六戸町の吉田豊町長と個別に会い協議した。同日は支援の可否について結論は出さなかったものの小山田市長は取材に「従来の枠組みを越えた支援は難しい」とあらためて述べたほか、3市町の判断が出そうなのは10月上旬との見方を示した。



十鉄への財政支援について種市市長(右)と会談する小山田市長＝20日午前8時50分ごろ、三沢市役所

—PR—

小山田市長は同日、三沢市役所を訪れ種市市長と約40分会談。その後、六戸町役場で吉田町長と約1時間協議した。どちらの会談も非公開で行われたが、各首長によると、会談では各自治体議会に対する説明や住民説明会の状況を報告し合ったという。

六戸町での会談終了後の取材に小山田市長は、3市町の判断が出そう時期について10月上旬になるとの見方を示した。

その上で「民間企業の赤字に税金を投入するのはいかがなものか」と述べた。住民との合意がなされていないとの指摘については「事業者がもうちょっと説明していかなければならない」と話した。

また、吉田町長は「経営改善に対する具体的な説明もなしに、金を出してくれ—というのであれば、行政としての支援は厳しいと言わざるを得ない」。種市市長も支援は厳しいとの認識を示した上で「(21日の)議会への説明の場方向付けがなされる」とした。

県外限定！！「東奥日報電子版」  
パソコンでその日の東奥日報がまるごと読めます  
購読のご案内、申し込みはこちら [>>クリック](#)

<<戻る